

平成24年7月11日から続く梅雨前線豪雨 による土砂災害発生状況

平成24年7月11日から続く梅雨前線豪雨による土砂災害発生状況

(7月23日5:30時点)

土砂災害発生件数

177件

〔土石流等：95件
地すべり：5件
がけ崩れ：77件〕

【被害状況】
人的被害：死者 22名
行方不明者1名
負傷者8名
人家被害：全壊39戸
半壊12戸
一部損壊21戸

7/12 土石流発生

死者3名

あそくん みなみあそむら しんじよかわ
熊本県阿蘇郡南阿蘇村新所川

あそし いちのみやまち ての
熊本県阿蘇市一の宮町手野

7/12 土石流発生

死者2名
全壊3戸

あそくん みなみあそむら しんじよかわ
熊本県阿蘇郡南阿蘇村新所川

7/14 がけ崩れ発生

死者1名

やめし ほしのむら ろくり
福岡県八女市星野村鹿里

7/12 がけ崩れ発生

全壊1戸

たけだ ふるその
大分県竹田市古園

7/12 土石流発生

死者6名、負傷者1名

あそし しかなし
熊本県阿蘇市坂梨



7/14 地すべり発生

やめし ほしのむら やなぼる
福岡県八女市星野村柳原

7/13 がけ崩れ発生

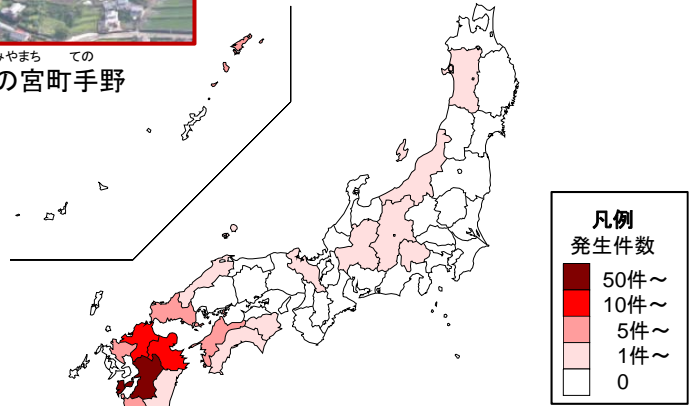
全壊2戸

たけだ かわどこ
大分県竹田市川床

7/14 土石流発生

全壊2戸
半壊1戸

うきは しうきは まちにいがわ
福岡県うきは市浮羽町新川



【施設効果事例】田口第2砂防堰堤・田口砂防堰堤(熊本県球磨郡五木村頭地)



災害発生日：平成24年7月12日 [時間最大雨量68mm(7/12 11時)、連続雨量322mm(7/12 1時~7/13 14時)]
 平成24年6月24日 [時間最大雨量31mm((6/24 9時)、連測雨量274mm (6/23 8時~6/24 21時)]
くまぐんいつきむらこうとうち

発生場所：熊本県球磨郡五木村甲頭地地先
 状況：梅雨前線豪雨により土石流が発生したが、砂防堰堤が整備されており、土石流(約7,600m³)を捕捉。下流地区の土石流被害を未然に防止した。



7月12日降雨により約7,100m³を捕捉 (H24年7月13日撮影)



2基の堰堤が土砂を捕捉し、土石流被害を未然に防止

【施設効果事例】大分県竹田市平原

災害発生日：7月12日

発生箇所：大分県竹田市平原
たけた ひらばる

崩壊状況：流木捕捉量 調査中

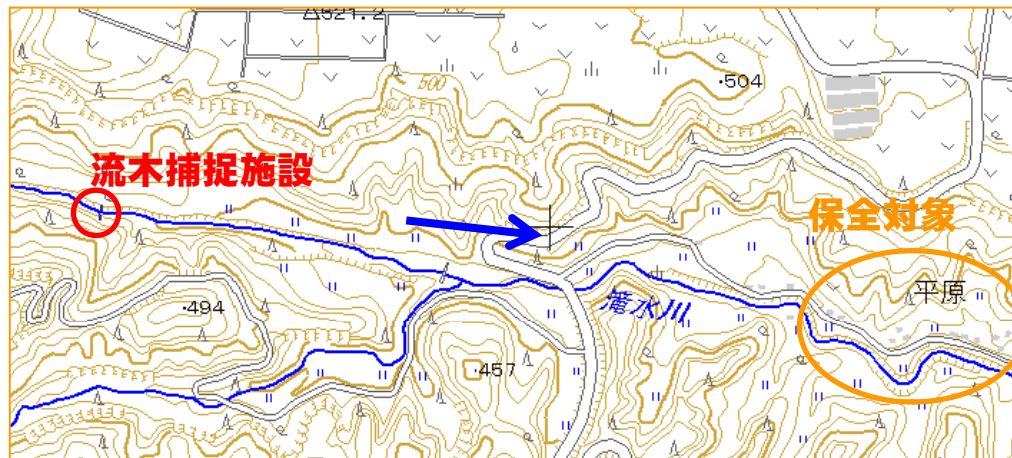
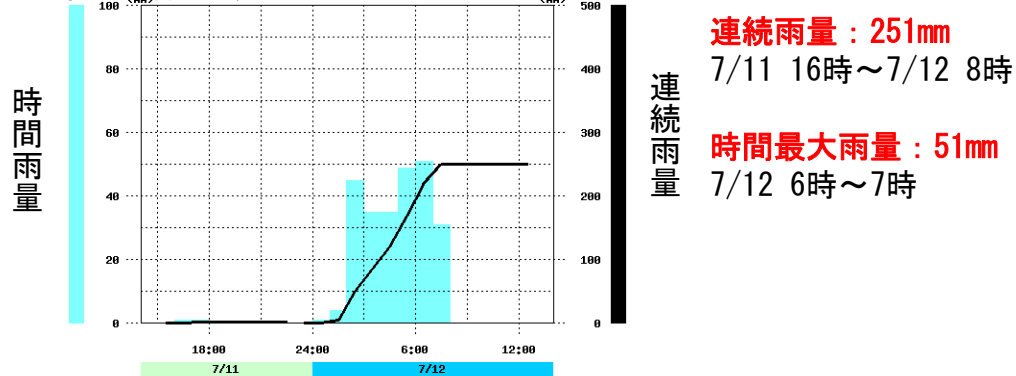
状況：梅雨前線に伴う豪雨により大量の流木が発生したが、砂防堰堤が整備されており流木を捕捉。一部流出したが、被害軽減につながった。



施設効果

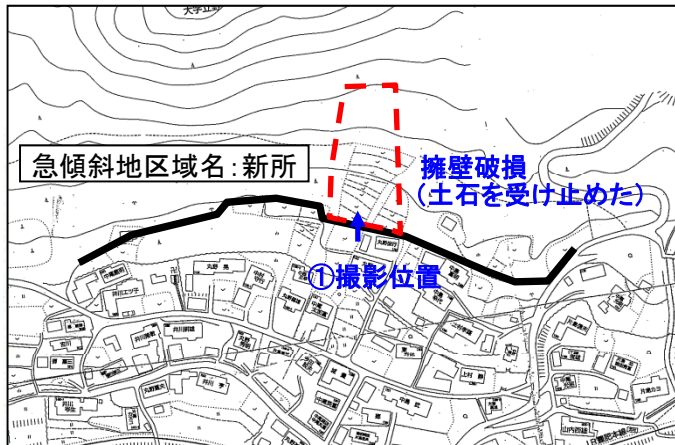


気象庁：竹田観測所

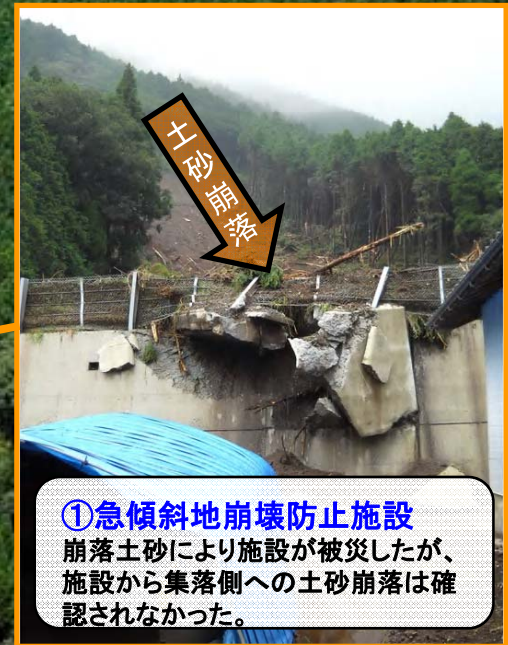


【施設効果事例】新所地区(熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野)

災害発生日：7月12日
連続雨量 369mm (7/11 16:00~7/12 16:00)
時間最大雨量 74mm/h (7/12 3:00~4:00) ちようよう ※熊本県長陽雨量局
発生箇所：熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野 あそぐんみなみあそむらたての



撮影:(株)パスコ/国際航業(株)



7月11日からの梅雨前線豪雨により発生した土砂災害に対する専門家の技術指導①

あそちほう あそ みなみあそむら

7月12日に熊本県阿蘇地方（阿蘇市、南阿蘇村）で発生した土砂災害に対し、熊本県からの要請に基づき、土砂災害の発生状況の把握及び今後の対応についての技術指導を実施。

派遣日：平成24年7月13日（金）～15日（日）

専門家名：国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター
砂防研究室 野村 研究官
独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ
火山・土石流チーム 石塚 上席研究員
秋山 交流研究員

専門家による現地調査状況



【専門家による所見】

- 坂梨地区における災害は、山腹崩壊で崩壊土砂が流動化し集落を呑み込んだものと思われる。
- 周辺地形は崩壊部分同様の急勾配斜面が連続しており、周辺箇所でも崩壊が散見されることから、今後の降雨による崩壊面の拡大に今後も十分な警戒を行う必要がある。

あそちほう

7月12日に熊本県阿蘇地方で発生した土砂災害に対し、自衛隊や消防などの救出活動時における山腹崩壊等による二次被害防止についての技術指導を実施。

派遣日：平成24年7月13日（金）～14日（土）

専門家名：国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター
砂防研究室 岡本 室長
佐藤 部外研究員
独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ
火山・土石流チーム 清水 研究員

自衛隊との打合せ状況

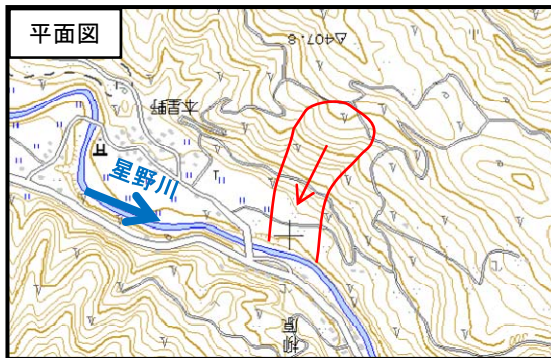


【専門家による所見】

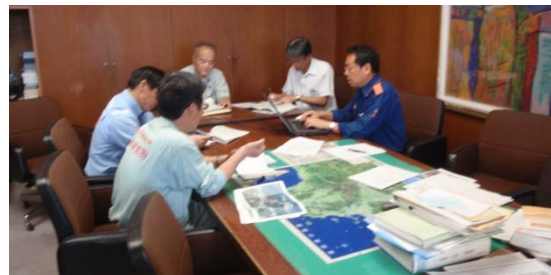
- 三久保地区における災害は、地すべり性の崩壊が発生し、流動化したもの。流動化により広範囲に土砂が到達・堆積した。
- 捜索活動にあたっては、監視員を立て、滑落崖上部の立木の傾き、がけ面における落石等を監視すること。

7月11日からの梅雨前線豪雨により発生した土砂災害に対する専門家の技術指導②

- やめしほしのむらやなばる
- 派遣先:福岡県八女市星野村柳原
 - 派遣要請:7月16日
 - 派遣期間:7月16~17日
 - 派遣メンバー:(独)土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム
 武士上席研究員 野田交流研究員 計2名



現地合同調査(末端部の状況)



福岡県への技術指導状況

【技術指導内容】

- 河道は多少狭くなっているが、せき止めは解消されている。
- 観測機器を設置し、引き続き警戒に当たる必要がある。